

令和 1 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成17年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地	(〒244 -0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和 2年 9月 10日	評価結果 市町村受理日	令和2年9月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内での防災訓練や行事にも参加させて頂き事業所として貢献できるように努めています。施設内外での研修も充実しており職員の意識向上にも繋がっていると思われます。またさくら園は緑豊かな自然に囲まれ四季を感じる事が出来る環境となっています。リスやハクビシン、夜には耳を澄ませばフクロウの声が聞こえる事も。春夏秋冬を感じて頂くために季節ごとの行事にも力を入れております。ただ開催するのではなく利用者様一人ひとりの生活歴や残存能力を生かし楽しく行事に参加できるよう工夫し、どのような支援があればその方の力を発揮できるのか？日々考えながら職員一丸となって支援して参ります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年9月18日	評価機関 評価決定日	令和2年9月23日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇新型コロナウイルス対応の徹底 新型コロナウイルス感染防止対応策について、職員全員による申し合わせを何度も繰り返し行い、利用者一人一人の環境を整え、感染者を出さないように日夜努力している。具体的には職員自身が感染しないよう毎日の生活に気を付け、コロナウイルスを身に着けない管理を徹底している。事業所内では外部からの訪問者には徹底した事業所内立ち入りをしないようにしている。 ◇職員の多くが近隣住民であることもあり、事業所が地域に溶け込んでいることで、入居者と地域住民との交流が自然に行われている。入居者は豊かに自然に囲まれて穏やかな生活を過ごしている。 ◇法人や管理者に職員の意見を尊重する姿勢があり、職員は意欲的に支援に取り組んでいる。また、職員の定着率が高く、利用者一人一人を良く知る職員による安定した支援が行われている。 【事業所が工夫している点】 ◇身体拘束並びに虐待について、職員に徹底するよう、話し合い、研修の定着などに工夫がみられる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、園の目標を職員間で話し合い作成、玄関に掲示している。	・理念を玄関ホールに掲示し、毎年理念に沿った目標を設定している。 ・職員は理念「人格の尊重・地域との融合」の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等において地域の方とも関わる事が多く、ご利用者様始めスタッフの顔も覚えて頂き、交流を図っています。	・事業所が地域に溶け込んでいる環境にあり、利用者は散歩や外気浴の際に地域の人たちと交流している。 ・事業所の行事には多くの近隣住民の手伝いや参加したり、手伝ってもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度の消防訓練等にて、年々地域の方の参加も増えご利用者様と直接関わる機会増やし、理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催。行政、家族、地域の方々の出席も多くあり意見交換が出来ています。	・運営推進会議には町内会役員、地域包括センター職員、家族代表に集まってもらい事業所の活動報告を行い、意見を聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室が出た際は、区役所、地域ケアプラザの連絡を密にし、日頃より連携が取れている。	・日常的に地域包括支援センターや栄区担当職員と顔を合わせている。 ・運営推進会議の議事録は栄区担当課に送っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を第一に考え玄関以外、ユニット出入り口、浴室、薬庫を施錠しています。	・身体拘束と虐待は深くつながっていると考え、入居時に説明し、虐待について事業所の義務を明確にしている。 ・身体拘束の内部研修を年4回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修の年間課題の一つとして勉強会、自己学習を設け虐待防止への徹底を図っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、現在1名、他ユニットで4名ご利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー同席の上、契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、意見交換を行い行事や日頃の様子をお伝えしている。	・運営推進会議や面会時に家族から意見を聞き、サービスの内容に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやユニット会議にて話し合いの機会を設けています。話し合った内容等、業務に反映出来る様、努めています。	・職員の提案で業務内容を改善している。 ・法人として、毎年各事業所職員の改善活動発表会があり、職員のモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見が反映される場面を作り、やりがいや気持ちを損なわない様な環境作りを心がけています。個々の特技や能力を生かすような仕事配分をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定表に基づき、内・外部研修に参加する事で、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列他GHへ研修をかねてお手伝いに行く事で、自身のスキルアップや質の向上に繋がっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、ご本人様にお会いし日頃の様子など伺わせて頂いています。ご家族様、または入院中の場合、病院関係者よりお話をお伺い入所後のケアがスムーズに行えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時、日頃の様子をお話させて頂いています。月に一回のお便りでご本人様の様子をお知らせさせて頂いています。ご家族様の要望等にも話しやすい環境づくりに努めさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と良く話し合い、情報収集に努めご本人様にあったご提案が出来る様にしていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報を共有しながら、少しずつその人らしさを出して頂けるよう努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、皆さん平等に家族の様に少しでもご利用者様の心の支えになれるように努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人、知人など気軽に面会出来る場を心がけます。	・職員は面会者に明るく丁寧に接し、家族や知人が立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の様子や、1人ひとりの状況を考え、生活の中にも変化を取り入れる事に努めます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が退所された後も機会があれば他施設への面会、訪問はさせていただく事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出勤した際、こちらから利用者様一人ひとりに声掛けをさせて頂いています。	・利用者のペースに合わせた丁寧な会話や様子の観察で意向の把握に努めている。散歩や入浴の際など利用者と1対1で過ごす時間にはゆっくりと思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご家族からしっかり話を聞かせて頂きご利用者様の様子を把握出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	漏れなく申し送りをし職員同士、情報共有を心がけご利用者様の現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日記入しているモニタリングや、ケアプランで一日の様子や状態を確認し今後のプランへつなげられるようにしている。	・毎日、利用者の様子やモニタリング結果を記録し月1回ケアカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員一人ひとりが気付いた情報をみんなで共有し話あえるよう意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様も、入居年数が長いもあり以前と比べると外泊、外出できる方は減ってしまわれましたがご家族から要望があれば対応出来るよう努力しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園の行事の際、お手紙を配布させていただきご招待しています。(BBQ, クリスマス会) 大家さんからは所有しているミカン畑でみかん狩りの声をかけて頂き毎年、利用者様、職員も楽しませて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回内科往診を受け、その都度必要に応じて他病院との連携を図って下さいます。	・利用者は事業所の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療や必要に応じた専門医紹介を受けている。 ・職員と医療関係者は「往診、訪問看護記録」で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護(週1)で園とナース間に報告ノートを用意し処置や情報、指導などアドバイスなどを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、直接病院へ出向きご利用者様の様子を確認。ドクターやナースからしっかり話を聞かせてもらう機会を作っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		・入居時に、事業所の「重度化対応指針」を説明し、同意書を受け取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修のほか、マニュアルでの習得。地域の方と合同で行う消防訓練では応急処置やAEDの実践も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と合同訓練を定期的に行っており協力体制は図れています。今後も地域消防団の方達と協力体制を密に取れるように努めます。	・年2回、消防署の協力を得て、入居者全員と近隣住民、消防団が参加して避難訓練を行っている。 ・町内会と「消防応援協力に関する覚書」を交わし、災害時の相互協力体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分の家族と思い対応させていただく。とはいえ、実際にはお客様であり自分たちよりもはるかに人生の先輩である利用者様です。声掛け一つでも失礼がないように対応させていただきます。	・人格の尊重など職員が利用者に対して心掛けるべき事項を箇条書きにして貼り出し、実行している。 ・個人情報保護方針を定め、個人情報に関する研修を毎年行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとり、得意不得意があるので無理強いすることなく、利用者様ご自身から進んで行えるよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った作業や楽しんで行えるものを無理せずやって頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整える事が難しい方は一緒に揃え替えて頂いています。室温などにも注意し季節に合ったお洋服を着て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は皆さん楽しみにされています。美味しく楽しく召し上がられるように嚥下体操を欠かさず行い、利用者様に合わせた食事形態で召し上がって頂けるよう努めています。	・食事前に嚥下体操たり、職員と話をしたりして、一緒に楽しく食事をしている。 ・玄関前の敷地バーベキューをしたり、行事で食事に変化を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に極端に水分量が少ない方もいらっしゃるので、摂取表を管理し一日に必要な食事量、水分量を管理しています。摂取量が落ち込む場合などはドクターに相談させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防につながる行為なので、ご利用者様ご自身ができる場合は自分の力で行って頂き仕上げ確認をし、出来ない利用者様は職員がお手伝いさせて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力でトイレに行ける方はご自身で。そうでない方は時間で声掛けを行いトイレ誘導を行っています。	・一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を使って声掛けやオムツ交換を行っている。 ・トイレへの誘導は、車イスをさりげなくトイレの近くに持って行くなど、一人一人に合ったやり方で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操を行い散歩等身体を動かし無理せずとも排便が促されるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3名。入浴を行い。ご本人の気分がすぐれない場合は無理強いはしていません。翌日に変更するなど、臨機応変に入浴して頂いています。	・入浴は一人概ね週2回としている。入浴しない人は足浴をしている。 ・脱衣場にエアコンを設置して寒暖差に配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中はラジオ体操、散歩。午後はレクリエーションをして身体を動かし足浴なども行い夜間穏やかに休めるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェックシートでの確認、職員同士でのダブルチェックで誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何気ない動作でも行動して周りから褒められたり声掛けされるだけでもご本人様がやる気を出してくれたり満足感を得る事ができそうな場合は些細なことであってもやって頂くように努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等はお出になられますがしっかりとした外出を行う方は少なくなりましたが、ご家族様協力の下実施されている方もいます。	・好天の日は、車イスの人も含め、職員と一緒に自然豊かな近隣を10～20分散歩している。 ・定期的な通院には家族だけでなく職員も一緒に付き添うことも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失などのトラブルが起こらないよう、入居の際、説明をさせて頂いています。ご家族様のご理解の下ご協力頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙やお電話は取り次がせていただき、一人では難しいご利用者様は支援させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園での行事などの写真をユニット内の廊下などに貼らせて頂いています。ご利用者様の居室は温度などにも注意して清潔を保つよう日々、声掛けしています。	・居間は窓が大きく、畑や竹林、桜などを眺められて開放感がある。 ・玄関や廊下に、職員と一緒に作った壁飾りや行事の写真を貼り、季節を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれる方も多いですが、リビングで他の利用者様とお話しされている方も多いです。居心地が良くなるよう努めます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来ていただいとところどころに今までの生活が垣間見れるような工夫はしています。生活や物がガラリと変わってしまった利用者様には不安にならないよう安心できるような声掛けを心がけています。	・居室は、エアコン、クローゼットが備え付けられ、利用者は、タンスやイス、テレビなど馴染みのものを持ちこんでいる。 ・壁には家族写真などを張り、居心地のよい空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚で見えてわかるよう、プレートを下げたり表示（テプラで自作）を貼ってご利用者様が生活しやすいように工夫しています。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末のユニット会議にてユニットの目標の話し合いを行い、作成と掲示をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と関われる事も多く散歩の際、声を掛けてくださったり時には畑で採れた野菜を分けてくださる等、交流が取れています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、行われる消防訓練等、年々地域の方の参加も増え利用者様はじめ職員も直接かわる機会が増えているので理解を深められています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催。行政からの出席も多く、ご家族様も参加して下さり意見交換が出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き室が出た際、区役所、地域ケアプラザへの連絡を密にし、日頃から連携が取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を第一に考えて、玄関以外ユニット出入口、浴室、薬庫への施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議において勉強会を行い、虐待防止への徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在両ユニットにて5名利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャー、ユニットリーダー同席の元、契約結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に一度運営推進会議を行い、家族間で意見交換を行い、行事や日頃の様子等を等をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや、ユニット会議で話し合う機会を設けて業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を聞き、職員1人1人の特技や能力を生かせるよう仕事配分を行い働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定表を作成し、内、外部研修に参加することで質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列のGHへの研修を兼ねた手伝いに行く事で職員自身のスキルアップや質の向上につながっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は必ず先方に出向きご本人様にお会いして、日頃の様子等、ご家族様または入院中の場合、病院関係者よりお話を多く伺い、入所後、園での生活がスムーズに行えるよう話し合いの時間を持っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の様子は月一回のお便り、さくら園日和にてお知らせしたり要望等にも話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	園とご家族様の間に温度差が出ないよう良く話し合いを行い情報収集に努めご本人様にあったご提案ができる様努力いたします。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに全く違う場所違う環境で過ごされてきたご利用様方。何事もなく馴染める方もいれば不安で仕方ない方もいらっしゃいます。職員間で連携を取り情報の共有をしながらご利用者様一人一人が自分らしく過ごせるよう努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様は様々な方がいらっしゃいます。皆さん平等に一緒に暮らす家族だと思いご利用者様が心穏やかに日々過ごせるよう努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等でご利用者様との関係が途切れないよう努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の日頃の様子や個々の状況を常に考え、席替えなどを行いコミュニケーションが深まる関わり方を心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	機会があれば退所後においても他施設への面会や訪問をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出勤時には一人ひとりに挨拶、声掛けを心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ずご家族様から十分な話し合いの時間を作って頂き、少しでもご本人様の様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から申し送りの徹底、情報共有は心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランや日々のモニタリングにてその日の様子や状態をちえっさせて頂き次回のプランへの情報に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様ご利用者様一人ひとりの気づきや様子を職員同士話し合う機会を持てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在、ご家族様が関われる方は3～4名、外泊はもとより、外出できる方は1名程です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいを大切にしています。日頃から園での催しに誘致しています。(バーベキューやクリスマス会)、大家さん所有のみかん畑に毎年ご招待頂きご利用者様だけでなく職員も収穫させて頂き楽しい時間を過ごさせて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、内科医による往診を受け又、必要に応じて他病院との連携医を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて園とナース間の報告ノートを設け報告ノートのほかに職員間のメール等で処置や情報、指導を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接面会させて頂き、本人の様子確認したり、担当ドクターやナースから話を聞く機会を多く作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にご家族様から終末期についての話を聞かれ、説明は致しますが、現状、今までにターミナルは行いません。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルにて習得。消防訓練時に応急処置、AEDの実践訓練も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の消防団との合同訓練を行い、協力体制が密に取れる様、関係づくりを構築している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「親しき中にも礼儀あり」の精神で声掛けや言葉使いにも個々に合わせ丁寧に対応できるよう努力しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様それぞれ気持ちをしっかり表現できる方、できない方がいらっしゃるなので職員も接し方や言葉かけを工夫して少しでも心を開いてくださるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本人のその日の気持ちや体調を優先して考えています。自宅にいた時と同様、穏やかに過ごせるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えや起床時の着替え等、ご自身で行うのが難しいかたはご一緒に揃えるようにしております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみの一つであるお食事なのでその方に合った食事形態にして嚥下体操も参食前に行い美味しく楽しく召し上がって頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を表にして日々管理を行い減少傾向がある利用者様はドクターに相談をし、栄養補助飲料を処方して頂く等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で行える方は声掛けをし、それ以外の方は見守り、介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、時間で声掛けを行うよう心がけています。全介助、テープ式の方は時間で対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課のラジオ体操、園外への散歩にて、身体を動かして頂き、排便がスムーズに行えるように支援しています。必要な場合には薬の処方も頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	1日3名を基本に、ローテーションで入浴提供しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は体操、散歩、午後は歌やレクリエーション、入浴以外の利用者様は足浴(3名)を実施し衛生面にも注意しながら水虫などの病気予防も気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量、間違えのない与薬を行なう為、利用者様一人ひとり、薬のチェックシートを使い複数の職員間で確認をし与薬に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日直係のように食事の号令かけをお願いしたり、出来る方に出来る事をやって頂いています。レクでの計算なども皆さん競ってお答えになって下さいます。他の利用者様や職員から褒められる事でご本人も気分良く活動して下さいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族が外出を希望される場合、ご家族様の協力の下、外出して頂いています。(通院、外食、美容院等)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様ご自身が使う機会はない事なので紛失などのトラブルを防ぐ為、入居時に説明させて頂き持ち込まないよう協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお電話等は取次ぎ、お手紙のやり取りも職員が支援させていただきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	合同レクや、園での行事の写真等をユニット内、廊下に貼り出して皆様に見て頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の好きな時間にそれぞれテレビを観たり、新聞を読んだり、他の利用者様と雑談したり、皆様、自由にお過ごし頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん入居時には思い思いの物を持ち込んで下さっているので今までと全く異空間という事はないと思います。お家にいる感覚でゆったり過ごせるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が目で見て分かるようにプレートを取り付け、スムーズに混乱なくお過ごし頂けるよう工夫しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくら園

作成日 令和2年9月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束については、項目7と同様、厚労省の「身体拘束ゼロへの手引き」のマニュアルを用い年4回の内部研修を行っている。 施錠については、引き続き玄関以外のユニットの出入り口、浴室、薬庫は、安全面を重視し施錠している。	身体拘束の年4回の内部研修を定着、継続させていく。施錠については、逆にユニットの出入り口は常時開放するよう変更する。	研修については、年間研修表で確認し、自身の受講の有無を確認できるよう、チェック表ファイルを設定した。ユニットの施錠に関しては、常時アナウンスをし、日ごろの癖をなくすように指導している。	6か月
2	7	虐待防止については、項目6と同様、内部研修として年4回行っている。	高齢者虐待と身体拘束は深く繋がっているものと考え、年4回の身体拘束の内部研修と共に、定着、継続させていく。	取り組みは、項目6と同じ。	6か月
3	12	職員の定着率は良いものの、職員の高齢化や世間的な人員不足は社会問題であり、他人事ではありません。これから起こりうる深刻な人員不足に備えるべく、労働時間や環境、条件の見直しが課題です。	業務流れや、シフトの見直し、又は効率アップのための業務の抜粋等。	記録類にボリュームがあったため、介護記録の内容や重複の見直し、その他、様式の変更を行いました。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。